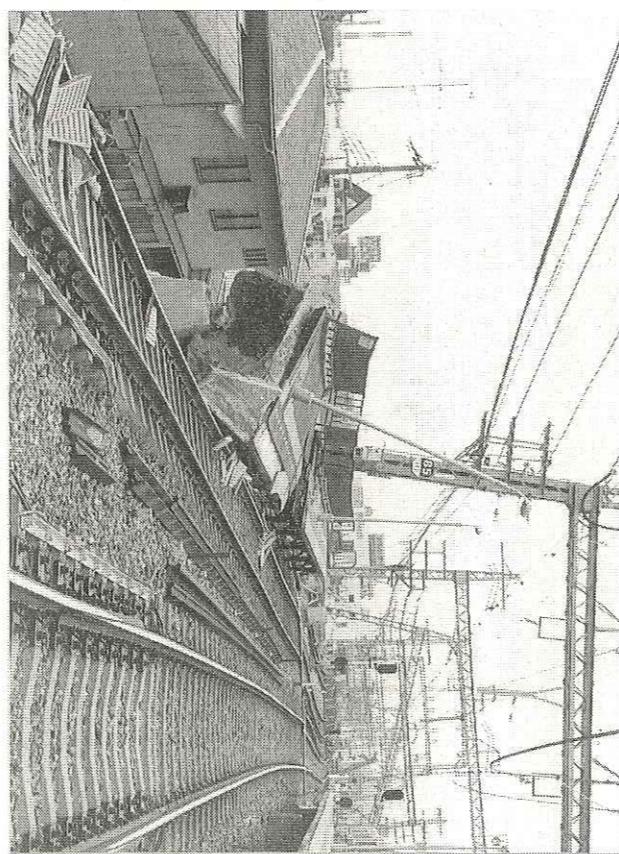


# 正義の魔女

財團 法人 連輸振興協会  
〒102-0083 三田代町麹町4-5  
TEL 03-3221-8431  
FAX 03-3221-8433  
ホームページ  
<http://www.hinet.net/~transport-pfor.jp>  
Eメールアドレス  
transport@hi-home.jp  
※協力会員登録料 1部 200円(税込)  
年 1,200円(税込)  
郵便振替 東京 1-24344



# 卷之三

登録  
法人運輸振興協会  
〒102-0083 千代田区麹町4-5  
TEL 03-3221-8431  
FAX 03-3221-8433  
ホームペインジ  
<http://www.transport-pj.or.jp>  
Eメールアドレス  
[transport@n-hone.jp](mailto:transport@n-hone.jp)

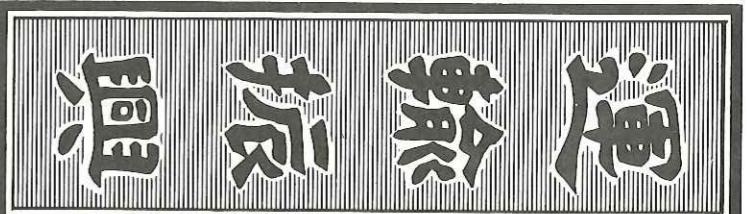
# 陸から命と暮らしを守る国土づくり

## 未曾有の大震災と国土 交通省の総力対応

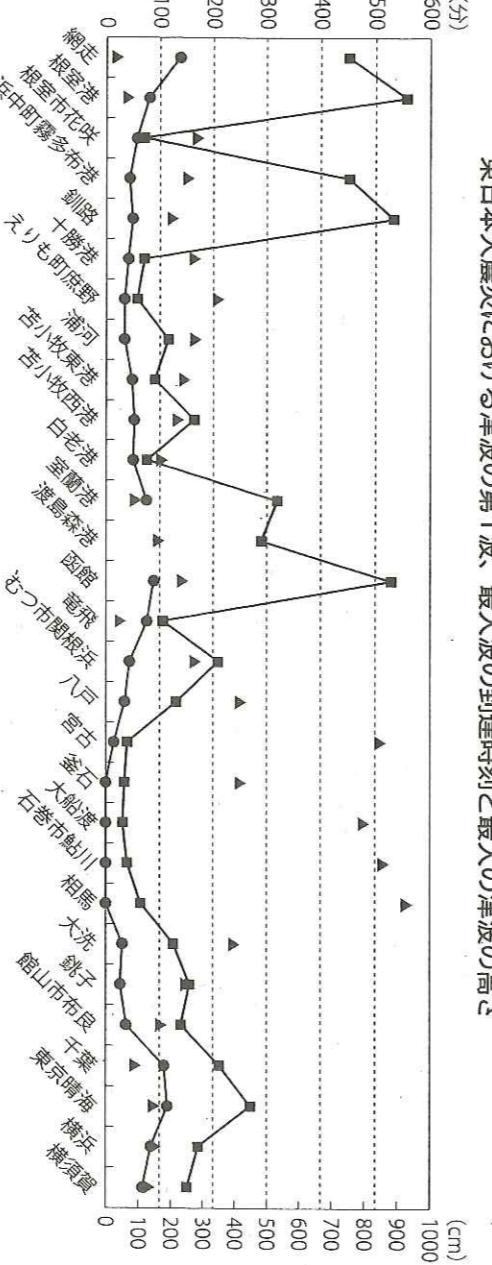
### 未曾有の大震災と国土 を乗り越えて

国土交通省は、平成22年度の国土交通白書「未曾有の大震災と国土」を8月26日の閣議に報告。公表しました。今般の東日本大震災は、我が国で初めて原子力緊急事態となりました。沿岸部では、津波が最も大きいと想定される地域で、多くの被災者が生き残りました。一方で、多くの被災者が生き残らなかったり、生き残ったがために犠牲になったりするなど、悲惨な結果になりました。

### 平成23年度版国土交通白書



発行所  
一般運輸振興協会  
〒102-0083 千代田区麹町4-5  
TEL 03-3221-8431  
FAX 03-3221-8433  
ホームページ  
<http://www.transport-pj.or.jp>  
メールアドレス  
transport@hi-chome.jp  
賃料開港年  
1部 200円(税込)  
郵便振替  
東京 1-24344

東日本大震災における大津波の状況  
【岩手県大船渡地区】東日本大震災における大津波の状況  
【岩手県宮古市付近】



# 国際競争力強化を目指す海事行政

平成23年版海事レポート

# 重要課題

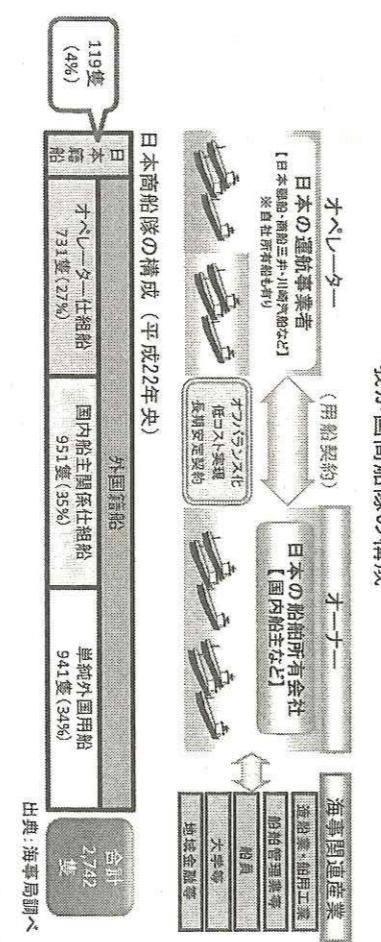
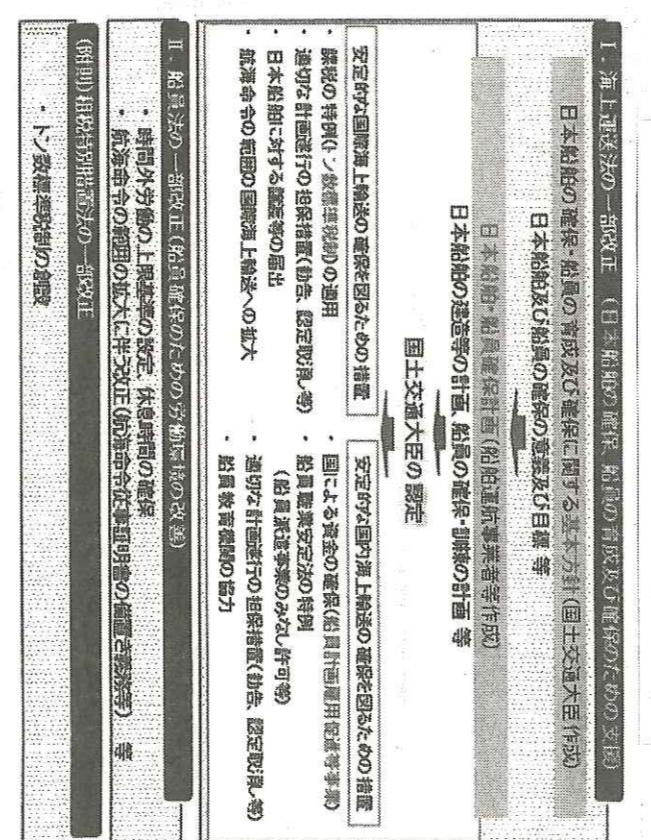
輸送の確保

# 海上行政における重要課題

## 安定的な国際海上輸送を確保する上で懸念する政策課題への対応をめぐってみます。その概要是—

おなじく本年版では、東日本大震災の被災者支援に活躍する海運会社アドベントにて紹介します。

本年版では、東日本大震災の被災者支援に活躍する海運がアドバタイジングする政策課題への対応をまとめています。その概要是――  
部を通じて海事行政の幅広い各分野について各種データ調査分析を踏まえ、直  
接的な基本的问题にも抜かりなく対処していく所存です。第I部、第II部、直  
運の次世代を担う優秀な船員の確保・育成、環境負荷の低い船の開発・普及、以  
らに、内航海運で蘇重建対策をはじめ、フットの活性化や離島航路の維持、  
今後一層厳しさを増すと予想される、具体的方策について議論を進めています。  
強化も重要で、昨今の世界経済動向や大型造船市場における日本の競合状況は  
充に、戦略的に取組み検討を進めています。また、造船業の国際競争制約の  
本商船隊の国際競争力強化が重要で、諸国と比べ島担当の重い外航運輸税制の  
善策が求められています。我が国が引き続き海事分野で世界の一潮流である  
世界経済のドローバル化アンドソーシャルの経済成長を積極的に取り込みへく、技術的  
な気低迷の影響で厳しい競争になります。少子高齢化の問題にも直面しております。  
を抱つておる、我が国が発展にとって極めて重要な産業です。しかし、近年の  
海運・造船など海事産業は、我が国国民生活や産業活動を支える重要な役  
国土交通省海事局は7月15日、「平成23年版海事レポート」を公表しました。



**助成**  **日本財団**  
The Nippon Foundation

| 東日本大震災への対応等 | 東日本大震災では、船員の物的支援を長期間継続して行なった。一方で、被災地の人々が自体が特定の被災地に滞在する場合は、被災地にかかわらず、津波による損害を受け持つ、人的・精神的・社会的な支援を行なった。 |
|-------------|--|
| (次頁へつづく)    | 平成23年3月11日に発生した東日本大震災では、船員の物的支援を長期間継続して行なった。   |
| 東日本大震災への対応等 | これは中国が四川大地震において、復興に道へ方策。<br>國際社会に復興の結果を求めて、採用した日本基金の運営によるものである。                                      |
| 東日本大震災への対応等 | これは中国が四川大地震において、復興に道へ方策。<br>國際社会に復興の結果を求めて、採用した日本基金の運営によるものである。                                      |
| 東日本大震災への対応等 | これは中国が四川大地震において、復興に道へ方策。<br>國際社会に復興の結果を求めて、採用した日本基金の運営によるものである。                                      |

23年1月、「新成長戦略の基本方針」を示すため、

環境に降り20年間低迷を経て、閉塞状態を脱却してきた。このみのじ戦略は、我が国を迎えて、社会保障や財政問題で、「新成長戦略」が実現に向けた戦略である。そこで、まずは始め、「新成長戦略」が「強」と「弱」として、日本の現状に何から何へと影響を与えるか、そのために、日本商船隊の国際競争力強化の施策が盛り込まれる。  
①日本籍船を中心とした船舶政策として、海上事務局による船舶登録制度の改定が進む。  
②船舶操縦士の育成(海技者)と船員の資格認定法の改正が実施される。  
③造船業の国際競争力強化のための施策として、そのための日本商船隊の国際競争力強化の施策が盛り込まれる。

被災原因を証するためにおいて、金口香港における調査を進めています。一般、鶴嘴香港技術研究局による港湾施設の被災原因の調査を進めています。

釜石港周辺の浸水域及び浸水高(最大値)による被災過程を再現しました。

一

# 一、津波の高さ計算(数値モデルによる現地適用)

(独) 港湾空港技術研究所

平成23年4月1日発表

津波防波堤の効果 2

②港域の低減: 20・2 m → 10・0 m (最大週上高) 波高及び浸水状況等を算定する場合の想定津波が無かつた場合

③水位上昇を遅延: 津波高が無かつた場合

④市街地を守る防潮堤と比較した結果

⑤防波堤がある場合の「防波堤」の想定津波が無かつた場合

⑥出。上記の「防波堤」が有った場合と比較した結果

⑦津波防波堤が無かつた場合

⑧石津港において「津波防波堤」が無かつた場合の減災効果を発揮したもの

⑨今回の計算結果を基に、  
金石港内の津波高: 防波堤が無かつた場合の被災程度を推測するに以下通り。ただし被災過程をより詳しく原因について更に詳細な解析や実験等が必要である。

⑩津波防波堤が無かつた場合の比較

→ 8・0 m (津波高を 4 m 及び原因について更に詳細な解析や実験等が必要である) 細分解や実験等が必要である。

た場合の比較

金石港内の津波高：防波堤が無かつた場合／有った場合の比較

現時点において津波防波堤の被災過程を推測するに以  
て津波高 6・7 m（津波高の低減：13・7 m）及び原因については更に詳  
細な解析や実験等が必要。

金石港に到達した後、被災過程は下通り。たゞ、  
金石港に到達した結果、津波をせき止め  
た結果、防波堤外側の水位が津波高を止め  
た結果、津波高の低減が必要。

金石港内における津波高：防波堤が無かつた場合／有った場合の比較

金石港の津波高（津波高の低減：13・7 m）及び原因については更に詳  
細な解析や実験等が必要。

金石港の津波高を 4 m と比較して結果  
が市街地を守る防潮堤らせた。

金石港の津波防波堤は大き  
な被害を受けたものの一  
定の減災効果を発揮したも  
のと考えられる。

今回の計算結果を基に、①第一波は（単回）お  
よび原因については更に詳  
細な解析や実験等が必要。

金石港内の津波高：防波堤が無かつた場合／有った場合の比較

現時点において津波防波堤の被災過程を推測するに以  
て津波高 10・8 m に増大し、  
津波高の低減：13・7 m

金石港に到達した後、被災過程は下通り。たゞ、  
金石港に到達した結果、津波をせき止め  
た結果、防波堤外側の水位が津波高を止め  
た結果、津波高の低減が必要。

津波防波堤の被災過程 3

された(洗掘)結果、そ  
こまでこの石材が洗い流  
され、これがより基礎  
地(隙間)には強い水流  
防波堤ケーンとの間の目  
水位差による港の入り口や  
8.3mの水位差が発生。  
り、港外と港内では最大  
港事務局によるところ、  
水位は十・2.6に留ま  
に位が十・8mであるの  
不 安定の上部  
に対する、防波堤内側の  
水位は十・2.6に留ま  
り、港外と港内では最大  
港事務局によるところ、  
水位は十・2.6に留ま  
に位が十・8mであるの  
不 安定の上部

**助成**   
The Nippon Foundation

震災は日本人すべからず忍すべき危機。復興への努力は今後長期間にならぬが、我が県も日本人がどう対処するか注目してまいり。今まで経験したことのない新しい復興計画が必要だ。震災前の復元だけがハーバードの安全性、快適性、成長のありとあらゆる未来にひびいていく。

**港における津波による被災過程を検証**

# 第三回 釜石港被災過程の検証

## 釜石港被災過程の検証

**金石港における津波防波堤の効果(シミュレーション結果)**

**津波防波堤が無い場合**

金石沖GPS波浪計  
津波高(観測値)  
6.7m

水深 204m  
沖合約20km

津波発生時の海面

**津波防波堤がある場合**

金石沖GPS波浪計  
津波高(観測値)  
6.7m

津波高(シミュレーション)  
10.8m

津波の進入をせき止め

4割低減  
津波高(シミュレーション)  
8.0m  
(現地の津波痕跡高と整合)

5割低減  
越上高(シミュレーション)  
約10.0m

防潮堤を超えるまで  
28分

防潮堤  
(高さ4.0m)  
ビル3階相当  
高さまで浸水

防潮堤  
(高さ4.0m)  
越上高

津波防波堤  
津波発生時の海面

防潮堤を超えるまで  
34分

6分遅延

遡上高(シミュレーション)  
20.2m